

第15回大学教育研究フォーラム  
2009年3月21日 @ 京都大学

【RT企画：FDに関わる若手教員の現状と未来～高等教育センター若手教員の奮闘2～】

## 地方国立大学大教センターの現状と課題

山田 剛史  
(島根大学教育開発センター／副センター長・専任講師)

E-mail: t-yamada@soc.shimane-u.ac.jp  
HP: http://yamatuyo.com

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## はじめに

■ 昨日のシンポジウム報告「大教センターはいかにFDの学内組織化に寄与しうるか」との関連

- 光と影
  - 基調となる事例は、地方国立大学大教センター（島大教育開発センター）に関するもので同一
  - 大教センターが重要な役割を担っているという報告（シンポ／光）の背景に潜む様々な困難や課題についての報告（RT／影）
  - 両者は共に主張していかなければならない重要な論点

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## 教育開発センターの組織体制について

- 2004年12月設置（兼任教員のみ）  
委員会方式→センター方式
- 2006年4月以降専任教員配置  
4月教授着任→翌3月異動  
8月講師着任（山田、実施）  
12月講師着任（田中、評価）  
2007年11月准教授着任（森、企画）

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## 教育開発センターの置かれている文脈

- 「地方」「国立」「総合」大学  
⇒ 危機感・焦燥感の薄さ（競争校がない）、強いセクショナリズム
- 「業務を中心とする」「大教センター」「専任教員」+「兼任教員」  
⇒ 「業務教員」「雑務処理班（何でも屋）」と同定  
⇒ 「任期付（更新は可）」「学部人件費」という重圧  
⇒ 副センター長・部門長を専任が担う体制、（一部を除く）委員会方式の解除
- 「教育・学生担当副学長がセンター長を兼任」「専任事務なし」  
⇒ 上層部とのつながりは濃い、あらゆる課題が降ってくる  
⇒ 一部の課の職員が兼務。センター業務に理解・協力が得られにくい  
⇒ 外部資金で人材を確保するが...

そんな中で要求される膨大・広範かつ責任ある業務（次スライド以降）

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## 教育開発センターの主な活動領域とその内容

- ① 教養教育・カリキュラム関係
  - 規則関係
  - 時間割・シラバス
  - 教職関係・資格関係
  - 島根大学優良教育実践表彰
  - 単位・GPA関係
  - JABEE関係
  - シニアカレッジ・9月入学
  - 授業科目担当
- ② FD・調査関係
  - 島根大学授業公開
  - We are 島大生!
  - 全学FD研修会・講演会
  - 全学FDシンポジウム・WS
  - TA研修会
  - 初年次学生調査
  - 卒業生調査 etc...
- ③ 評価関係
  - 授業評価アンケート
  - 授業評価PI
  - 認証評価
  - 法人評価教育・学生関係WG
- ④ 全学教育・外部資金関係
  - 環境教育PG (ISO14001)
  - 初年次・キャリア教育関係
  - フィールド概算事業(文科省)
  - FD概算事業(文科省)
  - 社会人学び直しPG(文科省)
  - 学生支援GP(文科省)

調査・研究

報告書作成

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## 色々なFD活動をしています。

### 学生調査や広報も色々やっています。

鳥根大学 卒業生・修了生に対する教育成果の検証調査  
鳥根大学 教員教育実践影響の研  
鳥根大学 教員教育実践影響の研  
鳥根大学 教員教育実践影響の研

### ■フィールド学習教育プログラムに関する事業展開

<b>事業名</b>	文部科学省 特別教育研究経費(教育改革) <b>鳥根の人と自然に学ぶフィールド学習教育プログラムの構築 —鳥根大学から世界が見える教育の展開—</b>
<b>Key Word</b>	フィールド体験学習, 環境教育, 人材育成, 地域共同教育, 教育方法改善
<b>概要</b>	身近にある豊かな自然環境と社会的・文化的環境を活用したフィールド学習教育プログラムを構築する。学びの場であるフィールドで現実の諸問題に取り組み、理論学習と結合した創造的実践的能力の向上を図るとともに、自然・社会・歴史・文化・人間(人と自然、すなわち世界)に対する総合的理解を深める大学教育を展開する。
<b>事業実施主体</b>	鳥根大学教育開発センター
<b>事業計画期間</b>	平成18年度～平成20年度(3年間)
<b>事業実施経費</b>	108,500千円

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

### ■社会人の学び直しに関する事業展開

<b>事業名</b>	文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム <b>体験と協働を核として社会力を育むキャリア教育プログラム</b>
<b>概要</b>	本事業は、県の若年者雇用問題(社会的ニーズ)に対応するため、現在定職がなく、就職に対する強い意志を持った18歳～30歳の若年者を対象に、体験と協働を核とした3つの領域からなる実践的なキャリア教育プログラムを提供し、社会力を育むことを目的とする。
<b>事業実施主体</b>	鳥根大学教育開発センター
<b>事業計画期間</b>	平成19年度～平成21年度(3年間)
<b>事業実施経費</b>	38,829千円
<b>備考</b>	<a href="http://manabi.shimane-u.ac.jp">http://manabi.shimane-u.ac.jp</a>

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

### ■FDの学内組織化と大学間連携への事業展開

<b>事業名</b>	文部科学省 特別教育研究経費(教育改革) <b>学生の学びを中心に据えた教職員ネットワークの構築とFDの組織化—山陰地域のFD拠点化に向けて—</b>
<b>Key Word</b>	FDの組織化, 学生の学び, ネットワーク, 大学内連携, 大学間連携, 教育改善の知の拠点
<b>概要</b>	学士課程教育の再構築とFD義務化の動向を鑑み、各局独自のFDと教育開発センターFD、更に大学間のFDが有機的に繋がるネットワークを組織化する。教育改善に係る知の拠点化を行い、大学構成員の教育力を高め、21世紀型市民としての学生の学びの質を保証する。
<b>事業実施主体</b>	鳥根大学教育開発センター
<b>事業計画期間</b>	平成21年度～平成25年度(5年間)
<b>事業実施経費</b>	153,820千円

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

### 学生の学びを中心に据えた教職員ネットワークの構築とFDの組織化—山陰地域のFD拠点化に向けて—

FD評価システムの開発・構築(多角的評価・点検・改善)

国立大学法人鳥根大学が、先進的FDの推進のため、地域の教育力向上のハブとなって、明確なエビデンスに基づき(Evidence Based)、学生の学びを中心に据えた(Learning Centered)、包括的・実質的なFDを実践する。

**学外FDネットワーク**

- 全国FDネットワーク
  - 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成(京都大学)
  - 若手FD研究者ネットワーク運営委員会(筑波大学)
  - FDプログラムの構築支援とFderの能力開発に関する研究(国教研・筑大)
- 地域FDネットワーク
  - 山陰地区FD連携協議会等
  - 鳥根大学3キャンパス(浜田・出雲・松江)との連携
  - 松江高等専修学校内の大学等へ連携を拡張
  - 県教委等の教育行政も巻き込んで地域のニーズを踏まえて情報の共有化を図る
  - 高校も巻き込んで大学接続の推進にもつながる

**鳥根大学**

**学生**

- ①学生企画プロジェクト
  - 学生企画WG (In, We can プロジェクト)
  - 鳥根大研究WG キャンパス・ポータルネットワーク
- ②教育調査プロジェクト
  - 学生生活調査
  - 学部にアンケート調査
  - 教職員生活調査
- ③FD企画プロジェクト
  - 授業評価アンケート検討会、公選型教育改善推進事業(鳥根大)
  - 教育改善WG 鳥根大FD推進 学生生活調査推進部、教育文化情報等
  - キャリアWG 職業教育がキャリア(キャリア・シラバス)検討会
  - FD企画WG 21世紀型市民、21世紀型 鳥根大 鳥根大研究WG 協議会、シンポジウム、ワークショップ、フォーラム
- ④連携実践プロジェクト(FDの構築とFD活用)
  - FD活用WG 鳥根大FD推進 学生生活調査推進部、教育文化情報等
  - FD活用WG 鳥根大FD推進 学生生活調査推進部、教育文化情報等
  - FD活用WG 鳥根大FD推進 学生生活調査推進部、教育文化情報等
  - FD活用WG 鳥根大FD推進 学生生活調査推進部、教育文化情報等
- ⑤地域連携プロジェクト
  - イベント企画WG 連携大学セミナリング調査、人材交流、合同フォーラムの実施

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

### ■次期中期目標・計画を視野に入れたアクションプランにおける教育重点課題

学習指導要領の改訂 → 「大学入試」時代 → ユニバーサル段階、機能分化 → 企業の採用・人事の変化 → 知識基盤社会、学習社会

**鳥根大学(学士課程)**

**教育システム**

- ①教育の質保証システムの構築
- ②英語教育の高度化の推進
- ③教養教育の充実

**学生支援**

- ④入学者選入方式の改善と試行の強化
- ⑤学生に対する支援
- ⑥「学生力」の育成
  - ⑥課外活動の育成による豊かな人格形成
  - ⑦社会人としての基礎的力量の養成

**教職員の職務活用**

- ⑧FD活動の実質化
- ⑨地域に貢献する人材の輩出
- ⑩官公庁・産業界への就職支援

**大学院課程**

- ⑤大学院の充実

**山陰・中国地区の大学間連携の強化**

2008年10月17日 ver. 教育開発センター・山陰行徳

## まとめ

- 実際の人数・組織体制の脆弱性にも関わらず、執行部や現場の学部教員から過剰な要求・期待が寄せられ、設置計画段階のセンター業務は領域・内容ともに遙かに超えて拡大の一途を辿っている。
- 国内における(特に地方国立にある)大教センターは、濃淡深淺の差こそあれ概ねこのような状況に置かれ、孤軍奮闘している。そして、様々な点で大学教育の質保証・向上に少なからぬ貢献を果たしている。

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

## 大教センターをめぐる10の課題

1. 執行部の理解とリーダーシップ
2. 責任所在の明確化
3. 適正な判断に基づく選択と集中
4. アメとムチの徹底
5. 教育文化の強調とそれに併せた評価体制の構築
6. 各部局にある閉鎖性の打破と連携体制の構築
7. 専門事務スタッフの確保と養成
8. 専任スタッフの意識・(宣言的・社会的)アイデンティティ問題
9. 大教センターのキャリアパス
10. 国による支援策(制度化)

など多数

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.

ご清聴、ありがとうございました！

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada. All rights reserved.